

# NEWSLETTER

## Physical History No.2



### 高畑ニュースより

- ・名古屋大学環境学研究科の溝口常俊さんが、今年の11月末から12月初めにかけて、北内田村（現在の松本市）の馬場家文書を調査された際にエッセイを書かれています。そのエッセイは、彼が発信している高畑ニュースに載せられています。
- ・Physical History Research Project (PHRP)にも非常に興味深い内容が載せられていますので、その記事をニュースレターの第2号として再録させていただきます。



村山 聡

なお、無断転用はお断りします。

Physical History Research Project  
(PHRP)

Rocky Mountains, Colorado, USA,  
October 04, 2007

馬場家文書調査1 (高畑ニュース#356 (中央道豆知識) BB256 071202 より)

名古屋大学大学院環境学研究科教授 溝口常俊

11月30日、大学院ゼミ、教室会議終了直後の午後7時4分に名古屋大学を出て、松本市内田の馬場家古文書調査に出かけた。レガシで名古屋ICから東名にのり小牧JTで中央道に入り塩尻ICに向かった。走りなれた道だが、今回初めて知った道中小話を幾つか示そう。

夕食を早くとりたかったが「うつつ」、「虎溪山」などのパーキングエリアでは自販機しがなく、結局「恵那峡」サービスエリアまで待たねばならなかった。8時8分着。朴葉味噌定食1,250円、同行したITK君はふるさと御膳1,000円で満足。トイレは改装中で仮設。8時45分発。恵那山トンネルに入った。ここは岐阜県と長野県の境、元、神坂村、現、中津川市神坂である。Borderに詳しいITK君によると、まず①「神坂」は「かみさか」でなく「みさか」です。②ここに吉田兼好の墓があるんですよ。(MIT何で知ってるの?) 5万分の1地形図にのってました。(へえ、ほんとだ、ナビにも出ている。なんでここにあるの?) 調べておきます。③島崎藤村は出生地が3回変わったんです。(3回も生まれたわけではないし。馬込で生まれたんでしょ?) その馬込が藤村が生まれたときは筑摩県で、それが後に長野県になり、

つい最近の平成の大合併で岐阜県になったんです。

恵那山トンネルを越えて飯田市にさしかかるあたり。この辺の高速道路で一番ロードキルされる動物は何か知ってる?

(ITKタヌキですか、サルですか) いや、ネコです。

飯田市の南が下条村でその南が阿南町です。阿南町の雲雀沢村の伊藤さんのお宅にはなんでもお邪魔し宗門改帳、日記、村入用帳などを閲覧させていただいた。大地主の嫁になった伊藤さんの泣ける話は「ある地主の嫁の語りより」と題して近々紹介するので、今回は下条村ネタ。ここは峰竜太の出身地。ドラゴンズファンのタレントだから知っているのではなく、道路を走れば、「ここは峰竜太の出身村」というタテカンが並んでいるからである。

峰竜太しかいないのか? そんな寂しい村である。そんな寂しい村が最近脚光を浴びている。出生率が全国平均の1.5倍で子供たちの声がこだましている。今朝(12/1)のテレビで峰氏が若奥さんたちにインタビューしていた。お子さんは何人ですか? 3人です、4人です、そんな方ばかりであった。村長さんの話によれば、村営住宅を増設し安く(2LDK:3万5千円)提供

し、小学校終了時まで教育費は無料にしているという。入居希望者が殺到し順番待ちだそう。依然として雇用の場がないという大問題が未解決のまま残されて入るが、明るい話題ではある。

飯田を抜けて北上すると駒ヶ根SAがあり伊那北に入る。天竜川本流に中央アルプスから流れ込む支流は「中田切り」「太田切り」など随分と深く山麓、段丘を切り込んでい。中央アルプスの宝剣岳を目指してロープウェイがあるので千畳敷カールまでは日帰りで容易にアプローチできる。地理研山岳部は数年前甲斐駒ヶ岳登頂を達成してこのかた休部状態なので、復活を祈念して「木曾駒」(1泊)あるいは「宝剣・木曾駒縦走」(2泊)をめざしたらどうだろう。

さらに中央道を北上すると「高遠」方面の案内がある。5月の連休に高遠まんじゅうを食べながら高遠桜見物がいい。正徳4年(1714)、歌舞伎役者生島と恋に落ちた大奥の女中江島が流された地でもある。高遠から北に向かうと杖突峠がある。峠の茶屋から眺める諏訪湖と八ヶ岳はすばらしい。学生のころ初代カローラで山梨調査に出かけていたとき、たびたび利用した道だ。

岡谷から長野道に入るあたりで今夜の宿「静山荘」に10時着の予定が30分ほど遅れると電話する。みどり湖パーキングエリアでカーナビを松本市内田に設定しなおし、塩尻ICを出て、暗い山道を走る。松本カントリークラブにさしかかるあたりで大きなつがいのカモシカに遭遇する。10時半、牛伏寺門前の旅館「清山荘」に到着。部屋も大浴場も貸し切りで1泊朝食付4,000円。明日は、馬場家訪問だ。

\*\*\* Billboard \*\*\*

BB256：木曾川文庫KISSO

国土交通省中部地方整備局木曾川下流河川事務所が出している雑誌「木曾川文庫KISSO」64, 2007, AUTUMNが伊藤安男先生から届いた(11/20)。そこに氏の「蘭人工師デレーケの治水思想(二)－砂防を中心として－」11-14、が載せられている。養老山地の土石流、窯業・林業地域の砂防工について詳述され、デレーケが治山を重視した河川一体観の治水思想をもたらしたことが記されている。

この雑誌の編集部の記事「AREA REPORT：相川扇状地に発達した垂井町の水環境」で、「水田の割合が高い地域であっても潤沢にみずがあったわけではなく、どこの村でも常に干害に怯え水の確保に苦勞して

いました」とあった。そのために井戸、ため池、マンボ(地下水路)が使用されたという。扇状地だから水の確保に苦勞したことは想像がつくが輪中地帯ではどうだろうか。もしも、日本最大の水郷地帯である輪中の村々が洪水に加えて「常に干害に怯え水の確保に苦勞していました」であつたらユニークな論文が書けそうだ。

さて、木曾川文庫は木曾川と長良川が接するところにある治水の資料館。

木曾川文庫顧問の伊藤安男先生は、大垣在住で輪中研究の大家。

そして名古屋大学附属図書館は木曾三川絵図の宝庫。伊藤先生に教えを請い、両資料館の絵図をじっくりと解釈すれば、ユニークな治山治水の地域環境史研究が出来ると思う。

-----  
編集後記

DECEMBER 08, 2007

このニュースレターの発行は、村山が行っております。現在行っている各種調査研究プロジェクトである「近世地域情報プロジェクト」(科学研究費基盤A「近世地域情報研究会」)、「溜池文化の比較研究」(香川大学特別奨励研究)ならびに「遠隔教育の比較研究」(文部科学省委託事業)の統合プロジェクトであるPHRPに関する案内などを発信しています。

今回は、冒頭にも書きましたように、溝口さんが長く続けられている高畑ニュースの一部を再録させて頂きました。

連絡先：村山 聡

香川県高松市幸町1-1

香川大学教育学部

tel/fax: 087-832-1571(office)

Email:

[muras@ed.kagawa-u.ac.jp](mailto:muras@ed.kagawa-u.ac.jp)

-----